

2. 秋田市の住宅事情

2-1 住宅ストックの状況

(1) 所有関係別住宅ストック

【住宅ストックの状況】

増える住宅数。増える空き家数。

平成10年の住宅土地統計調査によると、秋田市の住宅総数は、127,330戸となっており、そのうち居住世帯ありの住宅は115,510戸(90.7%)、空き家は11,150戸で空き家率は8.8%となっている。

昭和53年から平成10年までの推移をみると、住宅数が増加するなか、空き家となる住宅も増えている。

表 1-2-1 住宅数の推移【秋田市】 単位：戸

		昭和53年	昭和58年	昭和63年	平成5年	平成10年
住宅総数 (a)		87,200	97,030	106,540	115,100	127,330
居住世帯あり (b)		80,100	88,440	95,120	102,670	115,510
居住世帯なし	一時現在者のみ (c)	400	340	870	600	400
	空き家 (d)	6,200	7,860	10,300	10,850	11,150
	建設中 (e)	600	380	250	980	280
空き家率 (%) (d)/(a)		7.1	8.1	9.7	9.4	8.8

出典：住宅統計調査各年版

住宅統計調査データは、掲載総数が計算した総数とは異なる。
本報告書では住宅統計調査の記載データを用いる。

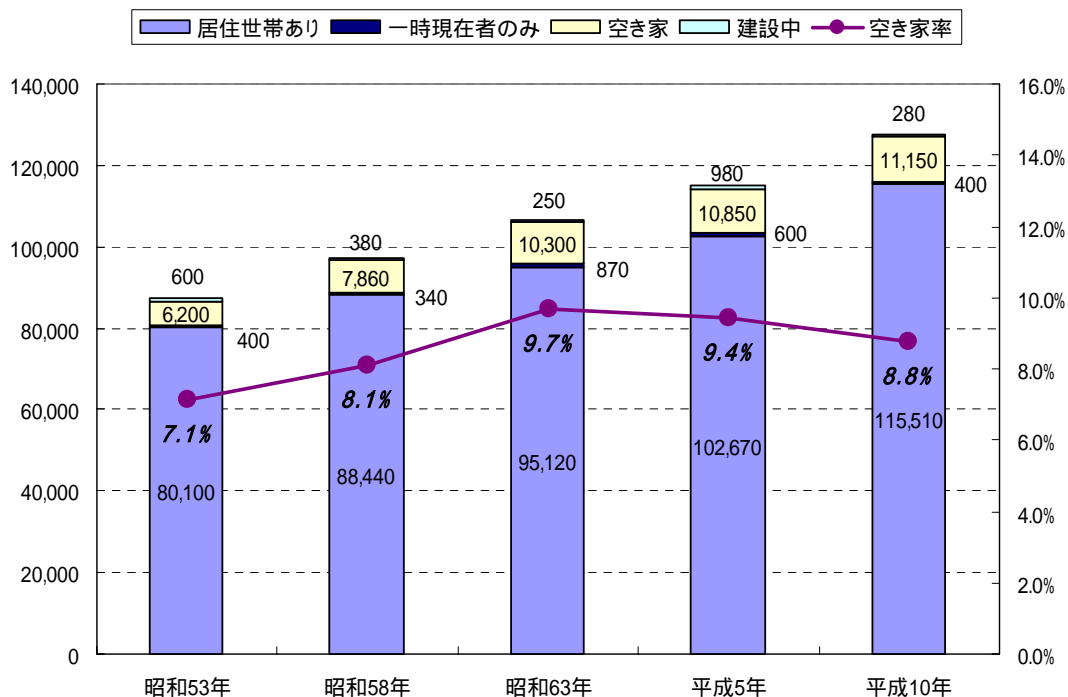


図 1-2-1 住宅数の推移【秋田市】 (出典：住宅統計調査各年版)

【所有関係別住宅ストック】

持ち家は増加傾向にあるが、構成比で見ると緩やかな減少傾向。
 民間借家は「数」も「率」も増加傾向。

平成10年の住宅土地統計調査によると、居住世帯のある住宅115,510戸のうち、持ち家は68,870戸(62.0%)、借家は、44,130戸(38.0%)となっている。

持ち家の推移をみると、住宅数は増加しているものの全体に占める割合は、平成5年まで減少傾向を示し、平成10年に再び2.6%程度の増加に転じている。借家については、民間借家で増加傾向を示しており、平成10年には30%に達した。公営、公団・公社の借家は、平成5年に大きく増加したものの、平成10年には減少している。給与住宅では増減を繰り返している。

表 1-2-2 住宅所有関係別の推移【秋田市】

単位:戸

	昭和53年	昭和58年	昭和63年	平成5年	平成10年
居住世帯あり住宅数	80,100	88,440	95,120	102,670	115,510
持ち家	51,600	57,160	59,820	61,730	68,870
借家総数	28,400	31,280	35,040	40,130	44,130
公営の借家	2,900	3,520	2,700	5,710	3,700
公団・公社の借家	-	-	90	550	410
民間借家	20,800	21,430	27,410	27,410	34,300
給与住宅	4,800	6,340	4,380	6,260	3,730

昭和53年は主世帯数

出典:住宅統計調査各年版

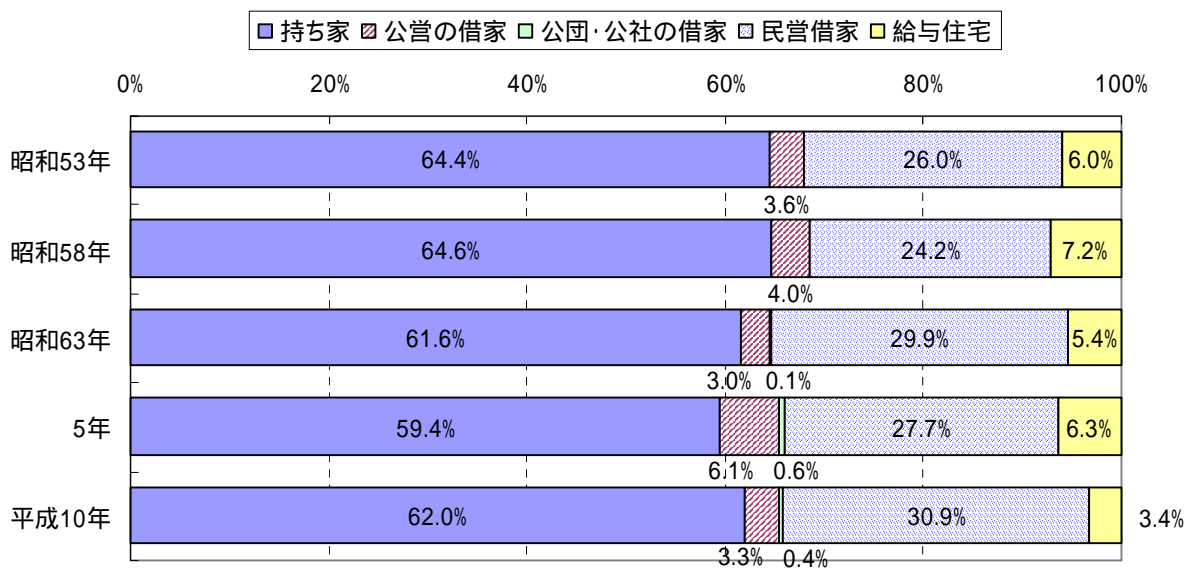


図 1-2-2 住宅所有関係別の推移【秋田市】 (出典:住宅統計調査各年版)

(2) 延床面積別住宅ストック

延べ床面積 100 m²以上の「数」「割合」が増加傾向にあり、70～99 m²の「数」「割合」が減少傾向。
 延べ床面積 30 m²未満の住宅で高い増加率。

平成10年の住宅土地統計調査によると、延べ床面積が100～149 m²の住宅が最も多く31,710戸(28.1%)であり、次いで150 m²以上の20,560戸(18.2%)と100 m²以上の住宅が全体の46.3%を占める。しかし、平成5年から10年の増加率では、100 m²以上の増加率を30 m²未満が上回っており、増加率は37.9%と高い。

延べ床面積別住宅数の推移【秋田市】

単位:戸

	昭和53年	昭和58年	昭和63年	平成5年	平成10年	H5～10の増加率
宅数	80,100	88,440	95,120	102,670	115,510	12.5
30m ² 未満	8,700	8,750	8,820	8,020	11,060	37.9
30～49m ²	11,700	11,690	15,800	16,370	18,640	13.9
50～69m ²	10,800	11,700	11,180	13,900	14,260	2.6
70～99m ²	18,100	18,440	17,040	17,120	16,770	-2.0
100～149m ²	20,500	25,160	25,820	28,740	31,710	10.3
150m ² 以上	10,200	12,700	16,230	17,710	20,560	16.1

出典:住宅統計調査各年版

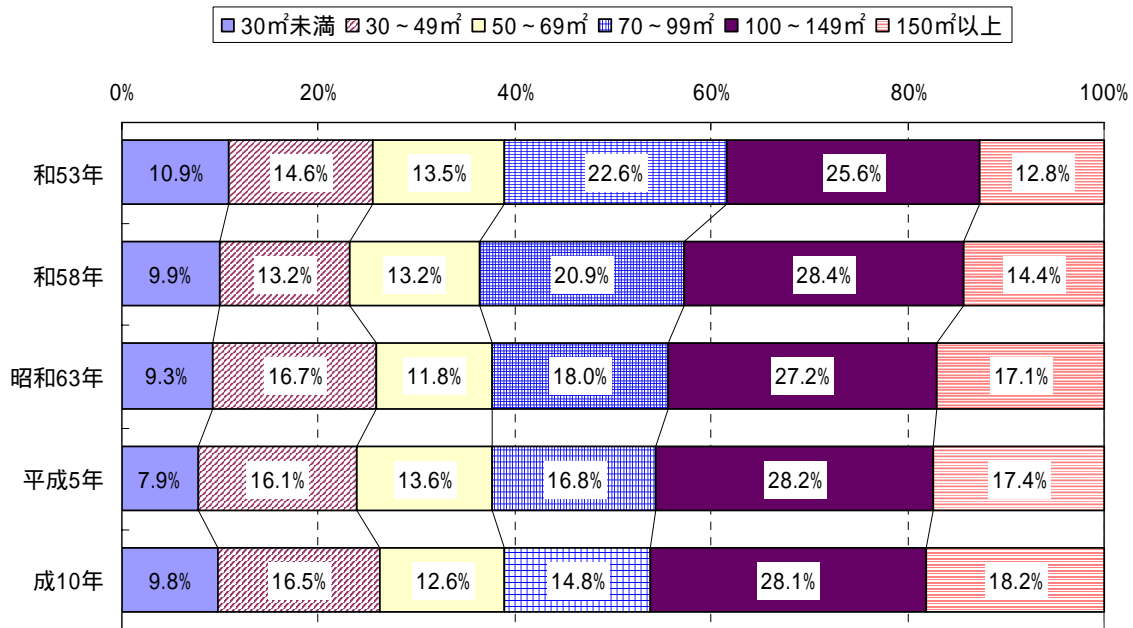


図1-2-3 延べ床面積別住宅数の構成比の推移【秋田市】 (出典:住宅統計調査各年版)

(3) 建て方別・構造別住宅ストック

【構造別住宅数】

防火木造の「数」「割合」が増加傾向にあり、木造の「数」「割合」が減少傾向にある。

平成10年の住宅土地統計調査によると、構造別の住宅数は防火木造が最も多く88,240戸(76.4%)、次いで非木造24,950戸(21.6%)、木造2,310戸(2.0%)である。平成5年から10年の増加率をみると、非木造で15.9%と最も高い増加率を示しており、防火木造が14.2%とそれに続いている。木造のみ-40.9%と大きく減少している。

構造別住宅数の推移【秋田市】

単位:戸

	昭和53年	昭和58年	昭和63年	平成5年	平成10年	H5~10の増加率
居住世帯あり住宅数	80,100	88,440	95,120	102,670	115,510	
木造	27,400	18,820	3,290	3,910	2,310	-40.9
防火木造	46,200	58,770	80,490	77,240	88,240	14.2
非木造	6,500	10,850	11,340	21,520	24,950	15.9

出典:住宅統計調査各年版

木造……建物の主な構造部分のうち、柱・はりなどの骨組みが木造のもの。
 ただし、次の「防火木造」に該当するものは含めない。
 防火木造……柱・はりなどの骨組みが木造で、屋根や外壁など延焼のおそれのある部分がモルタル、トタンなどの防火性能を有する材料でできているもの。
 非木造……ブロック造、鉄骨・鉄筋コンクリート造などの木造、防火木造以外のもの。

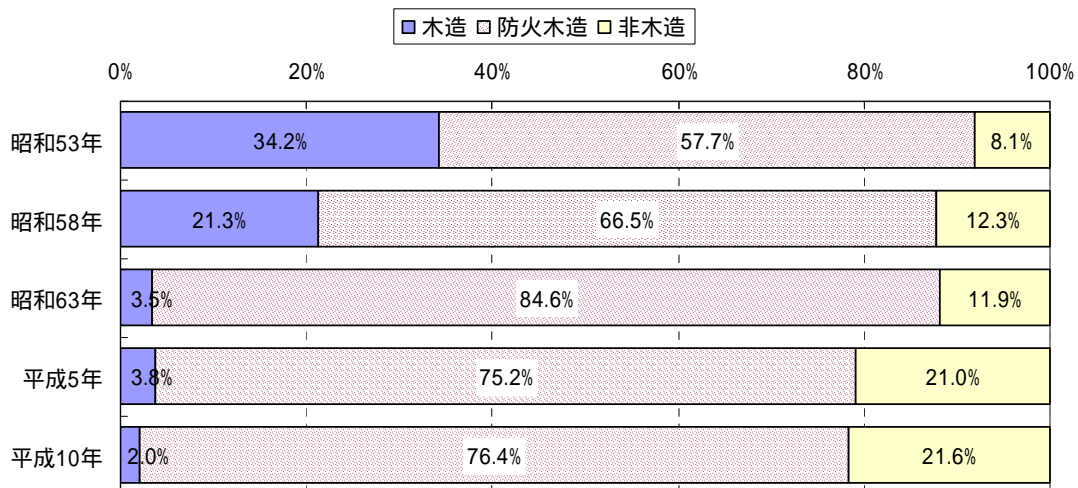


図1-2-4 構造別住宅数の推移【秋田市】 (出典:住宅統計各年版)

【建て方別住宅数】

一戸建て・2階以上が56.0%（H10住統）と過半を占める。
 1階建ては建て方を問わず減少傾向にある。

平成10年の住宅土地統計調査によると、建て方別住宅数は、一戸建2階以上が最も多く56.0%、次いで共同住宅2階（22.3%）、一戸建1階（12.7%）と一戸建が7割弱を占める。

建て方別住宅数の推移をみると、共同住宅2階、共同住宅6階以上で高い増加率を示している一方、共同住宅3～5階が大きく減少している。

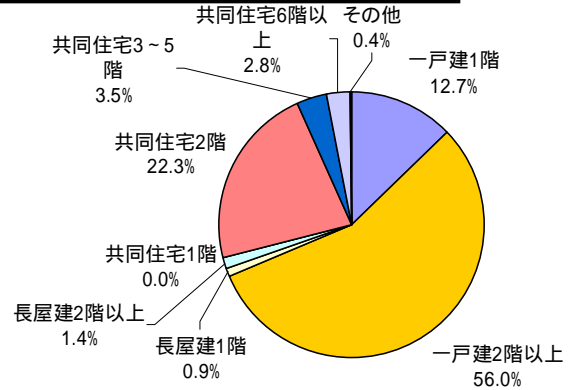


図 1-2-5 建て方別住宅数の割合
 【秋田市】（出典：住宅土地統計調査平成10年）

表 1-2-5 建て方別住宅数の推移【秋田市】

単位：戸

		昭和53年	昭和58年	昭和63年	平成5年	平成10年	H5～10の増加率
居住世帯あり住宅数		80,100	88,440	95,120	102,670	115,510	
一戸建て	1階	25,000	20,500	18,690	15,440	13,890	-10.0
	2階以上	37,000	45,010	49,520	53,860	61,350	13.9
長屋建て	1階	26,000	2,260	1,190	1,120	1,040	-7.1
	2階以上	26,000	2,620	2,960	1,510	1,560	3.3
共同住宅	1階	100	40	-	-	-	
	2階	10,300	11,410	16,120	16,050	24,450	52.3
	3～5階	2,000	6,120	4,740	11,940	3,800	-68.2
	6階以上	-	300	1,510	2,480	3,030	22.2
その他		200	180	380	270	390	44.4

出典：住宅統計調査各年版

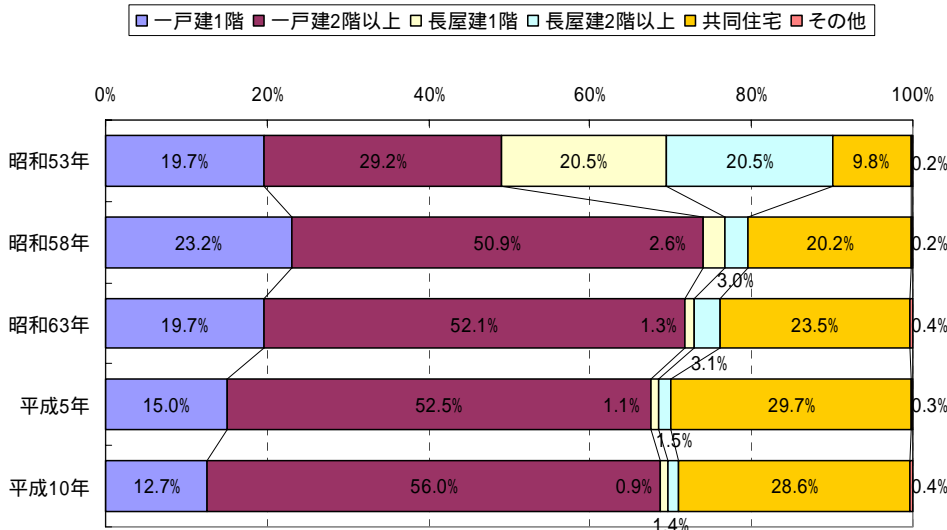


図 1-2-6 建て方別住宅数の推移【秋田市】（出典：住宅統計調査各年版）

(4) 建築時期別住宅ストック

昭和45年以前の築30年以上の住宅が16.6%。
木造住宅だけでは約3割が築30年以上。

平成10年の住宅土地統計調査によると、建築時期別では昭和56～平成2年が最も多く36,080戸(32.0%)であり、次いで昭和46～55年で34,690戸(30.8%)、終戦時～昭和45年で17,290戸(15.4%)となっている。

また、建築時期別の構造をみると、木造住宅の約3割が昭和45年以前に建設されており築30年以上を経過している。一方、非木造の約7割は昭和56年以降に建設され、築20年以内の比較的新しい住宅である。

建築時期別住宅数の推移【秋田市】

単位：戸

	昭和53年	昭和58年	昭和63年	平成5年	平成10年
居住世帯あり住宅数	80,100	88,440	95,120	102,670	115,510
終戦前	6,400	4,630	3,390	2,020	1,300
終戦時～昭和45年	38,200	31,750	25,180	19,000	17,290
昭和46年～55年	35,400	43,310	41,150	33,420	34,690
昭和56年～平成2年		8,280	25,020	37,390	36,080
平成3年～7年				9,680	14,740
平成8年～10年9月					8,500
不詳		470	370		

出典：住宅統計調査各年版

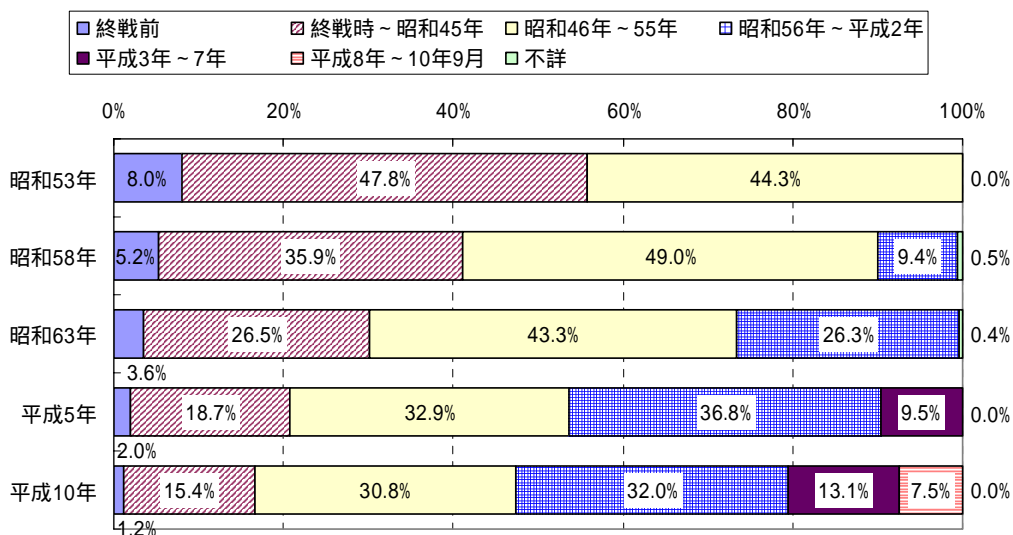


図 1-2-7 建築時期別住宅数の推移【秋田市】 (出典：住宅統計調査各年版)

建築時期別 × 構造別住宅数【秋田市】

単位：戸

	居住世帯 あり住宅数	木造	防火木造	非木造
居住世帯あり住宅数	115,510	2,310	88,240	24,950
終戦前	1,300	100	1,200	-
終戦時～昭和45年	17,290	540	15,700	1,050
昭和46年～55年	34,690	810	28,350	5,530
昭和56年～平成2年	36,080	640	23,550	11,890
平成3年～7年	14,740	160	11,980	2,600
平成8年～10年9月	8,500	10	5,830	2,660

出典：住宅土地統計調査 平成10年

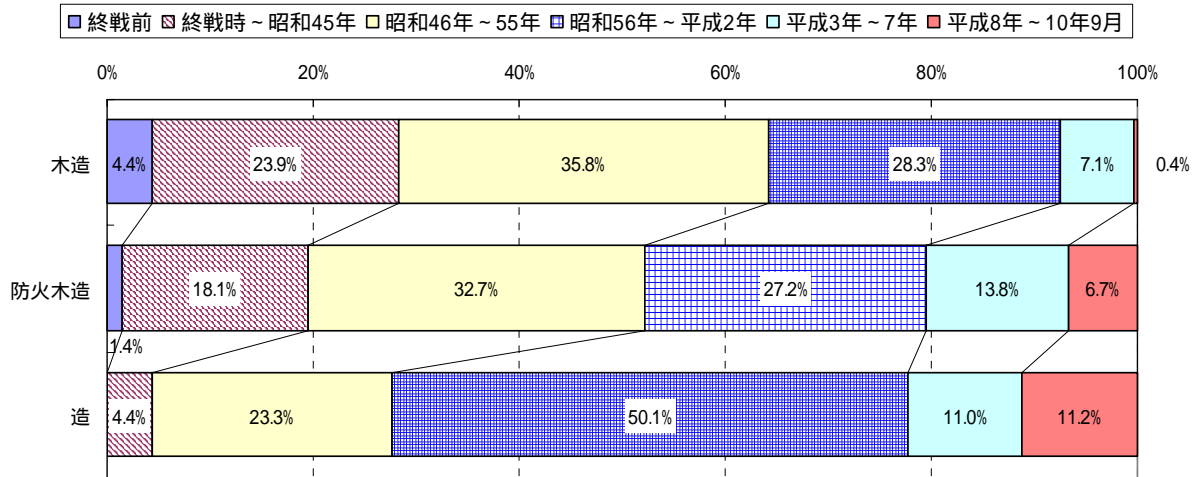


図 1-2-8 建築時期別 × 構造別住宅数【秋田市】 (出典：住宅土地統計調査平成 10 年版)

(5) 収入階級別住宅ストック

300万円以下が減少傾向、500万円以上が増加傾向にある。
 所有関係別にみると公営借家で300万円以上の世帯が約半数を占め、民間借家で200万円以下の世帯も約3割を占める。

平成10年の住宅土地統計調査によると、年収階級別の世帯構成比は500万円以上が最も多く43,580世帯(38.8%)であり、次いで300~500万円が32,140世帯(28.6%)、200万円未満が19,170世帯(17.7%)である。昭和53年以降の推移をみると、世帯構成比は、300円未満では減少傾向、300~500円では横ばい、500万円以上については大幅に増加している。

住宅所有関係別において、最も大きい構成比を占める収入階級は、持ち家では500~700万円(17.4%)、公営の借家では200万円未満(26.5%)、公団・公社の借家では300~400万円(34.1%)、民間借家では200万円未満(29.6%)、給与住宅では500~700万円(31.9%)となっている。

表1-2-8 年間収入階級別の普通世帯総数の推移【秋田市】

単位:世帯

	昭和53年	昭和58年	昭和63年	平成5年	平成10年
普通世帯総数	80,600	89,040	95,720	103,420	116,310
200万円未満	27,500	24,330	23,260	17,730	19,170
200~300万円	22,700	19,950	18,480	14,890	17,420
300~500万円	22,400	28,620	27,710	29,200	32,140
500万円以上	7,500	15,950	25,240	38,920	43,580

出典:住宅統計調査各年版

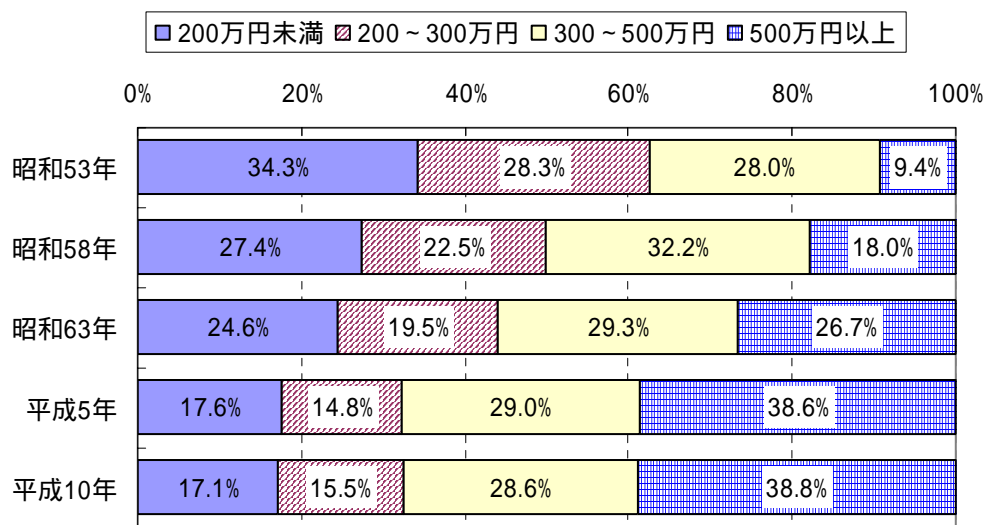


図1-2-9 年間収入階級別の普通世帯総数割合の推移【秋田市】 (出典:住宅統計調査各年版)

年間収入階級別 × 住宅所有関係別の世帯数【秋田市】

単位：世帯

	普通世帯 総数	主世帯数	持ち家	借家				
					公営	公団・公社	民営	給与
総数	116,310	115,510	68,870	44,130	3,700	410	34,300	5,730
200万円未満	19,170	19,100	7,830	11,270	980	10	10,150	120
200～300万円	17,420	17,260	8,920	8,340	930	70	7,090	250
300～400万円	17,490	17,410	10,240	7,170	810	140	5,630	600
400～500万円	14,650	14,490	9,120	5,370	550	100	4,020	700
500～700万円	18,470	18,310	12,010	6,310	340	70	4,070	1,830
700～1,000万円	15,520	15,440	11,580	3,870	50	10	2,090	1,720
1,000～1,500万円	7,490	7,420	6,310	1,120	-	-	760	360
1,500万円以上	2,100	2,080	1,910	170	-	-	50	120

出典：住宅土地統計調査 平成10年

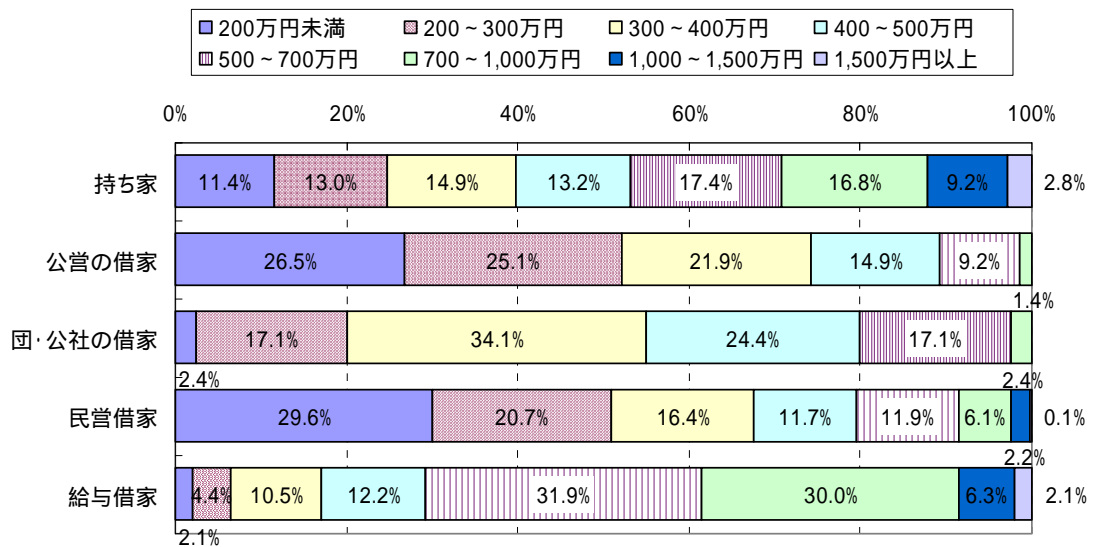


図 1-2-10 年間収入階級別 × 住宅所有関係別の世帯数の割合【秋田市】

(出典：住宅土地統計調査平成10年)

(6) 住宅の規模

持ち家は居住室の室数及び畳数、延べ床面積とも増加傾向にある。
 借家は居住室の室数及び畳数、延べ床面積とも、平成5年を境に減少に転じている。

住宅統計調査を経年的に見てみると、昭和53年以降順調に拡大してきた住宅の規模は、平成10年に、1住宅あたりの居住室数、畳数、延べ面積ともに減少しており、小規模化する傾向がうかがえる。

居住室数の推移をみると、持ち家、借家とも平成5年まで増加傾向にあり、平成10年には借家の居住室数が減少している。延べ面積の推移も同様である。畳数は、持ち家、借家とも平成10年に減少している。

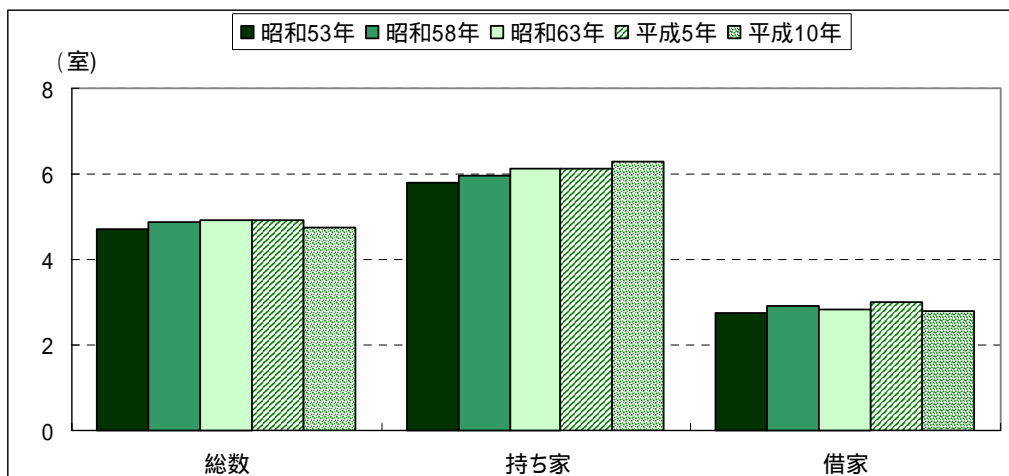


図 1-2-11 1住宅あたり居住室数の推移【秋田市】 (出典:住宅統計調査各年版)

表 1-2-10 1住宅あたり居住室数の推移【秋田市】 (出典:住宅統計調査各年版)

	単位:室				
	昭和53年	昭和58年	昭和63年	平成5年	平成10年
総数	4.70	4.88	4.92	4.90	4.77
持ち家	5.79	5.96	6.14	6.13	6.30
借家	2.73	2.91	2.85	3.01	2.80

出典:住宅統計調査各年版

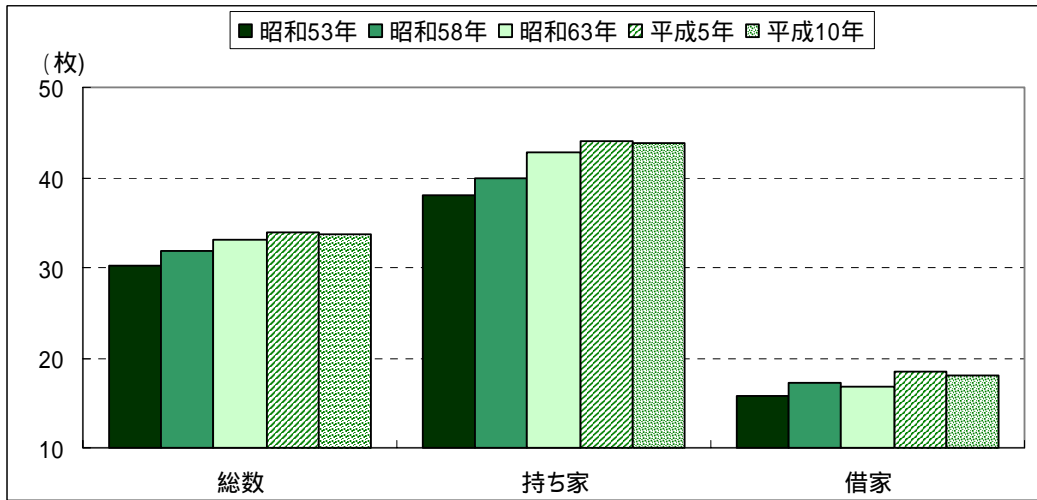


図 1-2-12 1住宅あたり居住室の畳数の推移【秋田市】 (出典:住宅統計調査各年版)

単位:枚

	昭和53年	昭和58年	昭和63年	平成5年	平成10年
総数	30.17	31.85	33.19	33.99	33.76
持ち家	38.11	39.84	42.73	44.05	43.90
借家	15.72	17.25	16.89	18.53	17.95

表 1-2-11

1住宅あたり居住室の畳数の推移【秋田市】

(出典:住宅統計調査各年版)

出典:住宅統計調査各年版

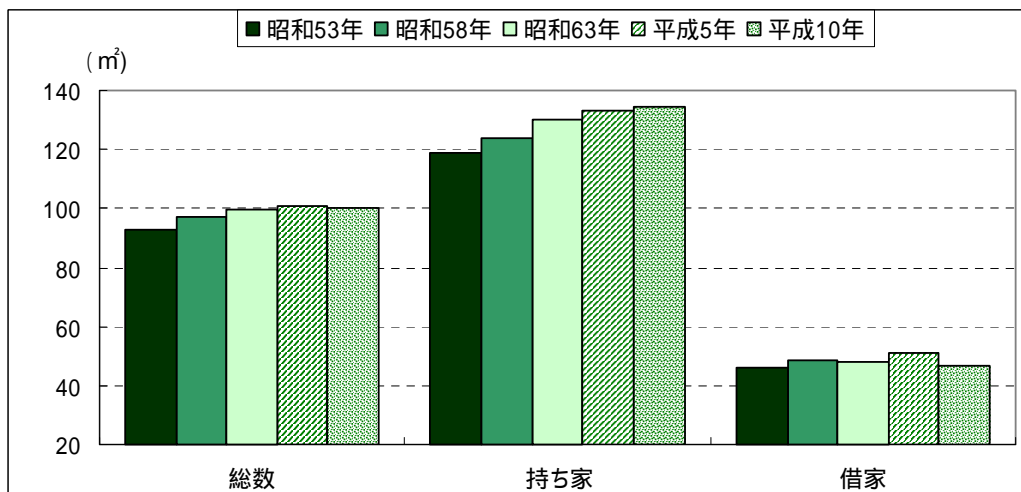


図 1-2-13 1住宅あたり延べ面積の推移【秋田市】 (出典:住宅統計調査各年版)

単位:㎡

	昭和53年	昭和58年	昭和63年	平成5年	平成10年
総数	92.99	96.94	99.82	100.56	99.97
持ち家	118.80	123.53	130.19	132.88	134.11
借家	46.10	48.37	47.97	50.85	46.68

表 1-2-12

1住宅あたり延べ面積の推移【秋田市】

(出典:住宅統計調査各年版)

出典:住宅統計調査各年版

(7) 居住水準

最低居住水準は改善されているが、公的住宅に比べ民間借家の改善が遅い傾向にある。

公的借家及び民間借家の約7割は都市型誘導居住水準を、持ち家の約3割は一般型誘導居住水準を満たしていない。

平成10年の住宅土地統計調査によると、秋田市の最低居住水準未達の世帯は2,970世帯(2.6%)であり、民間借家が2,420世帯と最も多い。また、住宅所有関係別ごとの居住水準構成比をみると、公的借家では誘導居住水準未達の住宅が2,960戸あり7割以上を占めている。

平成5年の住宅統計調査と比較すると、最低居住水準未達、誘導居住水準未達の世帯は減少し、都市居住型誘導居住水準以上、一般型誘導居住水準以上の世帯は増加している。

表 1-2-13 所有関係別の各居住水準の構成比【秋田市 平成5年・平成10年】

単位:世帯

	最低居住水準未達の世帯		誘導居住水準未達の世帯		都市居住型誘導居住水準以上の世帯		一般型誘導居住水準以上の世帯		主世帯数
		構成比		構成比		構成比		構成比	
総数	4,330	4.2%	47,530	46.3%	11,070	10.8%	43,260	42.1%	102,670
持ち家	550	0.9%	20,550	33.3%	590	1.0%	40,590	65.8%	61,730
借家	3,780	9.4%	26,990	67.3%	10,470	26.1%	2,670	6.7%	40,130
公的借家	730	11.3%	4,600	71.2%	1,840	28.5%	10	0.2%	6,460
民間借家	2,480	9.0%	18,450	67.3%	6,960	25.4%	1,990	7.3%	27,410
給与住宅	570	9.1%	3,920	62.6%	1,670	26.7%	670	10.7%	6,260

出典:住宅統計調査 平成5年

単位:世帯

	最低居住水準未達の世帯		誘導居住水準未達の世帯		都市居住型誘導居住水準以上の世帯		一般型誘導居住水準以上の世帯		主世帯数
		構成比		構成比		構成比		構成比	
総数	2,970	2.6%	47,280	40.9%	14,870	12.9%	50,070	43.3%	115,510
持ち家	280	0.4%	19,110	27.7%	1,570	2.3%	47,550	69.0%	68,870
借家	2,690	6.1%	28,160	63.8%	13,300	30.1%	2,520	5.7%	44,130
公的借家	140	3.4%	2,960	72.0%	1,060	25.8%	40	1.0%	4,110
民間借家	2,420	7.1%	21,560	62.9%	10,400	30.3%	2,260	6.6%	34,300
給与住宅	130	2.3%	3,640	63.5%	1,830	31.9%	230	4.0%	5,730

出典:住宅統計調査 平成10年

最低居住水準：健康で文化的な住生活の基礎として必要不可欠で全ての世帯が確保すべき水準。
P60 参照

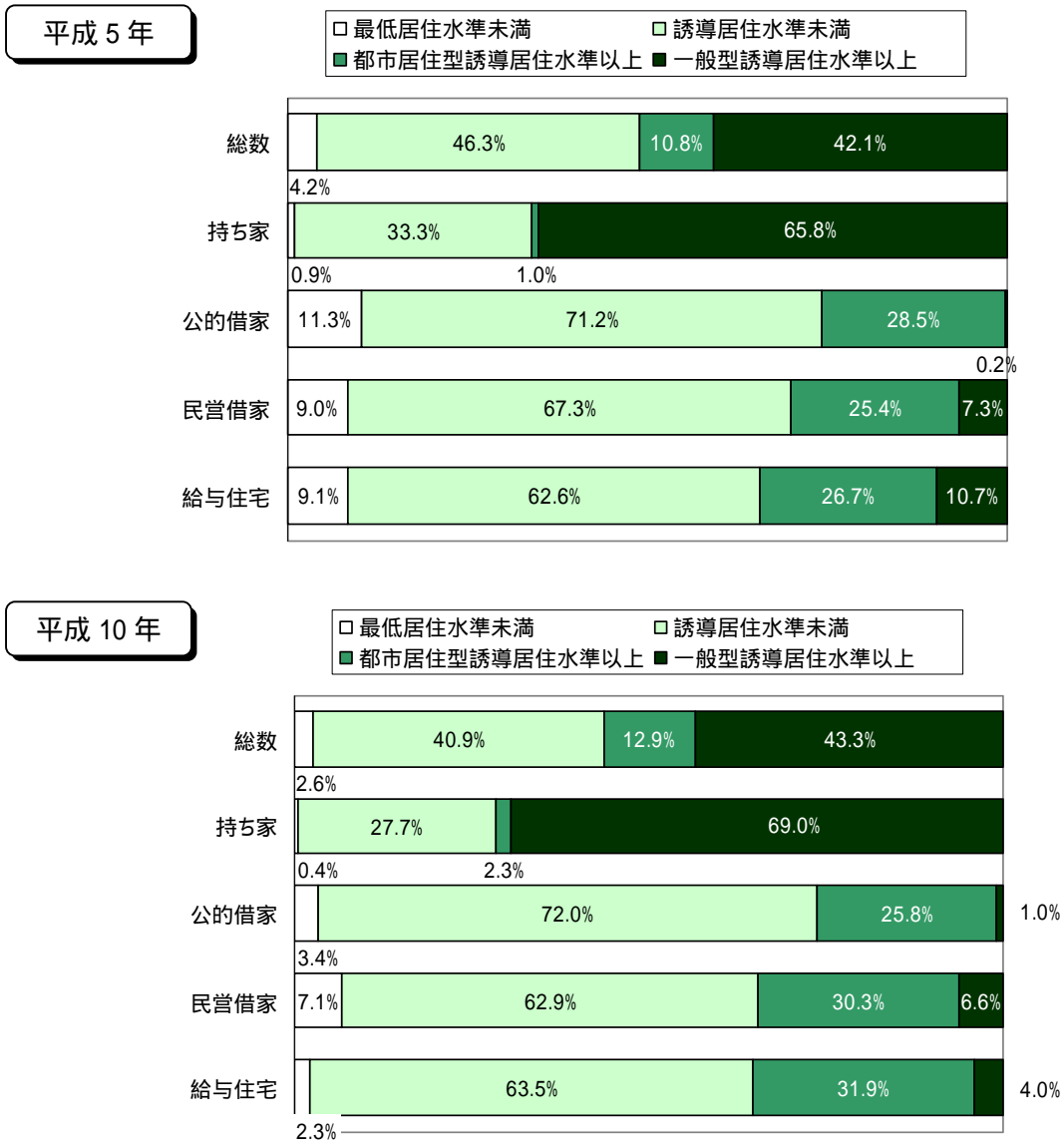


図 1-2-14 所有関係別の各居住水準の構成比 [秋田市 平成 5 年・平成 10 年]
(出典:住宅統計調査 平成 5 年、住宅土地統計調査 平成 10 年)

2 - 2 高齢者居住の状況 (65 歳以上)

(1) 類型別高齢者世帯

高齢者世帯は増加しており、特に高齢単身世帯、高齢夫婦が増加傾向にある。

秋田市における平成10年の類型別高齢者世帯は、65歳以上の単身世帯が6,010世帯(17.4%)、65歳以上の夫婦世帯は、10,600世帯(30.8%)である。平成5年と比較すると、単身世帯、夫婦世帯とも、世帯数は大幅に増加している。

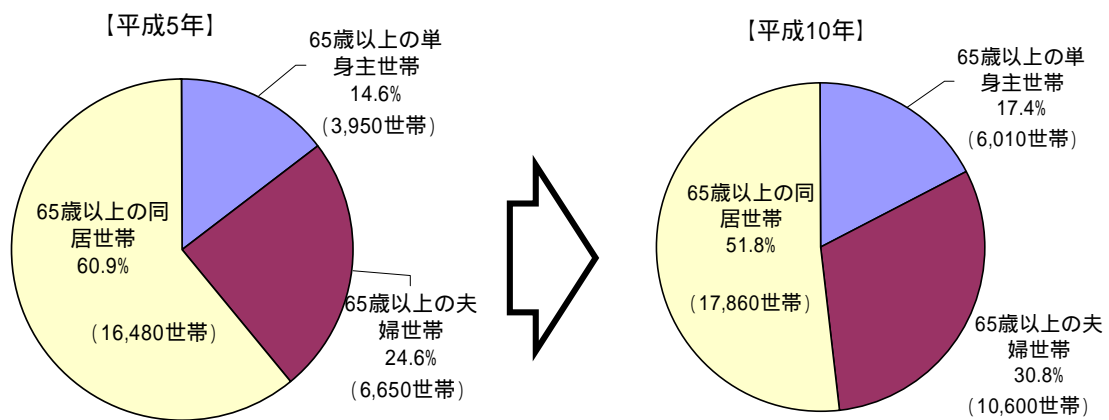


図 1-2-15 類型別高齢者世帯の構成比 [秋田市]
(出典:住宅統計調査平成5年 住宅土地統計調査平成10年版)

(2) 所有関係

持ち家が9割を占めるが、高齢単身者世帯のみでは民間借家及び公営・公団・公社の借家の割合が高くなっている。

平成10年の住宅土地統計調査によると、高齢者のいる世帯のうち、31,670世帯(91.9%)が持ち家に居住している。

高齢単身世帯では持ち家居住は4,830世帯(80.5%)と、他の世帯類型に比べると低い割合を示し、逆に民間借家の居住世帯は970世帯(16.2%)と高い割合を示している。平成5年のデータと比較すると、単身高齢者では、持ち家や給与住宅の割合が増えている。

また、高齢者夫婦では、どちらか一方が65歳以上、夫婦とも65歳以上の高齢者夫婦ともに、持ち家の占める割合が増えている。

表 1-2-14 類型別高齢者世帯の所有関係別住宅戸数構成比【秋田市】

【平成5年】	65歳以上の世帯員がいる 普通世帯数の総数			65歳以上の単身世帯			65歳以上の夫婦世帯								
	総数	最低居住水準		総数	最低居住水準		総数	最低居住水準		一方が65歳以上の夫婦		夫婦とも65歳以上の夫婦			
		水準以上	水準未満		水準以上	水準未満		総数	最低居住水準	総数	最低居住水準				
主世帯数	27,080	26,600	480	3,950	3,850	100	6,650	6,650	-	2,260	2,260	-	4,390	4,390	-
持ち家	24,740	24,480	260	3,060	3,040	20	6,100	6,100	-	1,980	1,980	-	4,120	4,120	-
借家	2,340	2,130	220	890	810	80	550	550	-	280	280	-	280	280	-
公営・公団・公社の借家	510	480	30	170	170	-	170	170	-	70	70	-	90	90	-
民営借家	1,700	1,520	170	720	640	80	390	390	-	200	200	-	190	190	-
給与住宅	130	120	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

出典：住宅統計調査 平成5年

【平成10年】	65歳以上の世帯員がいる 普通世帯数の総数			65歳以上の単身世帯			65歳以上の夫婦世帯								
	総数	最低居住水準		総数	最低居住水準		総数	最低居住水準		一方が65歳以上の夫婦		夫婦とも65歳以上の夫婦			
		水準以上	水準未満		水準以上	水準未満		総数	最低居住水準	総数	最低居住水準				
主世帯数	34,470	34,140	330	6,010	5,940	70	10,600	10,590	10	2,850	2,840	10	7,750	7,750	-
持ち家	31,670	31,570	100	4,830	4,800	30	10,000	9,990	10	2,680	2,660	10	7,330	7,330	-
借家	2,810	2,570	230	1,180	1,140	40	600	600	-	180	180	-	420	420	-
公営・公団・公社の借家	650	630	30	180	180	-	190	190	-	50	50	-	130	130	-
民営借家	2,030	1,860	170	970	930	40	400	400	-	110	110	-	290	290	-
給与住宅	120	80	30	20	20	-	10	10	-	10	10	-	-	-	-

出典：住宅土地統計調査 平成10年

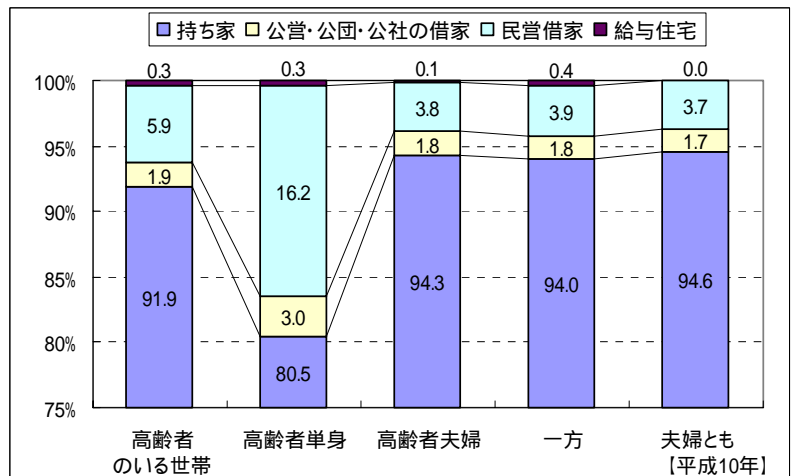
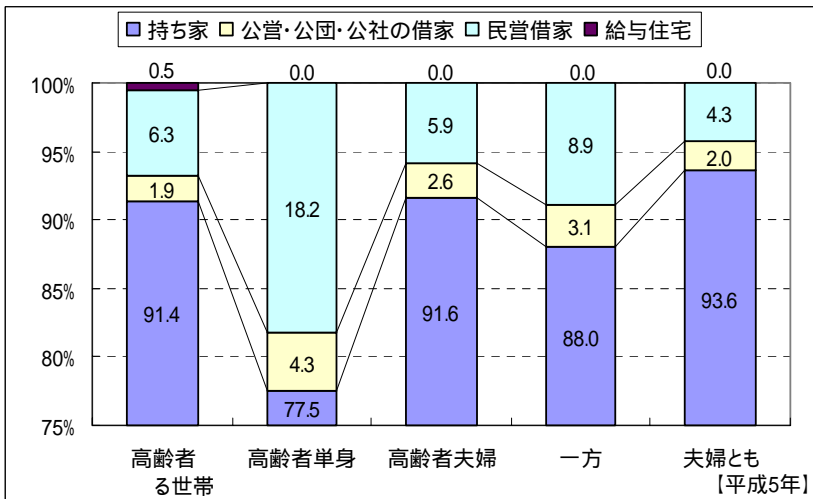


図 1-2-16 類型別高齢者世帯の所有関係別住宅戸数構成比【秋田市】

(出典：住宅統計調査平成5・10年版)

2-3 住宅フローの状況

(1) 新設住宅建築状況

新設住宅建築確認件数は緩やかな減少傾向にある。
 持ち家が1,452戸、38.8%を占め、平成6年度以降緩やかな減少傾向にある。

新設住宅建築確認件数については、平成8年度に大幅な伸びを見せたが、平成9年度以降は緩やかな減少傾向にあり、平成12年度の件数は、3,738戸となっている。

新設住宅の内訳をみると、持家の占める割合は平成6年度以降減少し、平成8～9年度には貸家が持家を上回り、平成10～11年度にはいったん増加したが、平成12年度には38.8%まで減少した。分譲住宅は、平成7年度以降11～12%程度で推移している。

表12-184 所有関係別の新設住宅着工数の推移【秋田市】

単位：戸

	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
総数	4,262	3,811	5,213	3,927	3,731	3,704	3,738
持家	2,075	1,723	2,190	1,572	1,621	1,638	1,452
貸家	1,778	1,583	2,319	1,830	1,533	1,569	1,664
給与住宅	61	60	117	90	128	65	26
分譲住宅	348	445	587	435	449	432	596

出典：平成12年度版「統計から見た伸びゆく秋田市」（但し12年度は建築指導課調べ）
 データは年度別（平成6年：平成6年4月～平成7年3月）

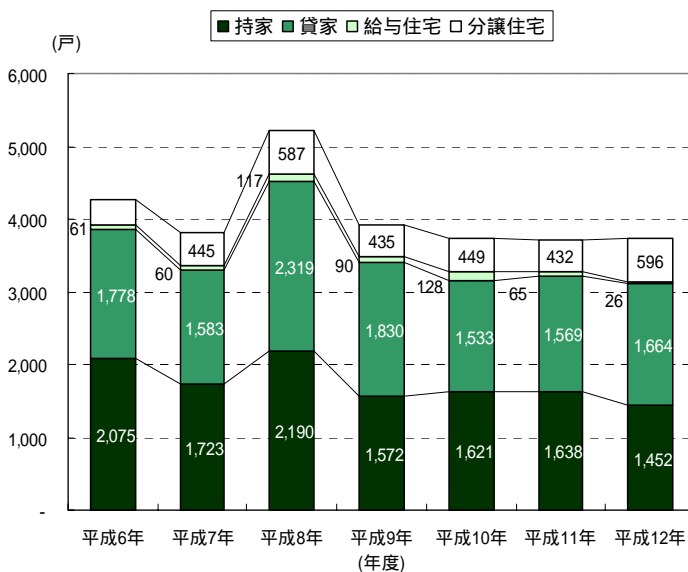


図1-2-17 新設住宅建築確認件数の推移【秋田市】

(出典：平成12年度版「統計から見た伸びゆく秋田市」
 (但し平成12年は建築指導課調べ))

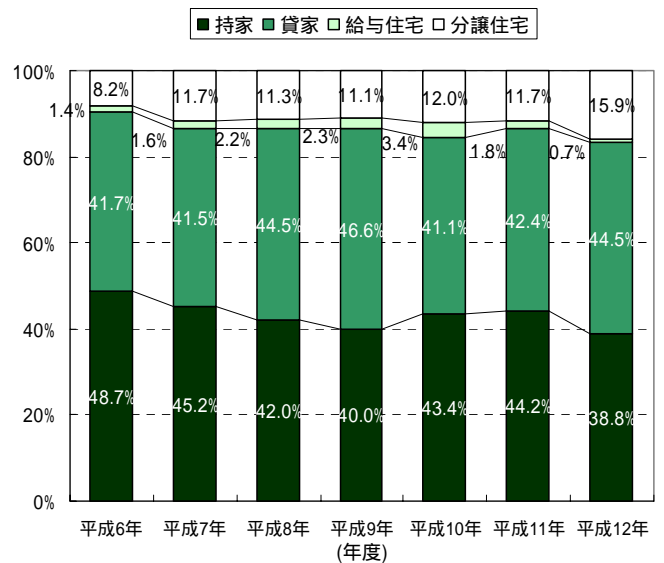


図1-2-18 新設住宅建築確認件数の構成比の推移【秋田市】

(出典：平成12年度版「統計から見た伸びゆく秋田市」
 (但し平成12年は建築指導課調べ))

(2) 地価動向

商業地では低下。
住宅地、宅地見込み地では、若干上昇傾向。

平成13年度の地価公示によると、秋田市の土地利用別の平均価格は、住宅地で67,718円/m²、宅地見込み地で23,200円/m²、商業地で217,113円/m²である。増加率をみると、最も平均価格の高い商業地では、価格が低下している。住宅地、宅地見込み地では、上昇傾向を示しているものの、増加率は低くなっている。

土地利用別平均地価の推移【秋田市】 単位：円/m²

	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
住宅地	65,764	68,008	68,400	68,458	67,718
宅地見込み地	21,450	22,400	22,950	23,100	23,200
商業地	256,488	244,667	235,854	226,367	217,113
増加率					
住宅地		3.4%	0.6%	0.1%	-1.1%
宅地見込み地		4.4%	2.5%	0.7%	0.4%
商業地		-4.6%	-3.6%	-4.0%	-4.1%

出典：地価公示各年版

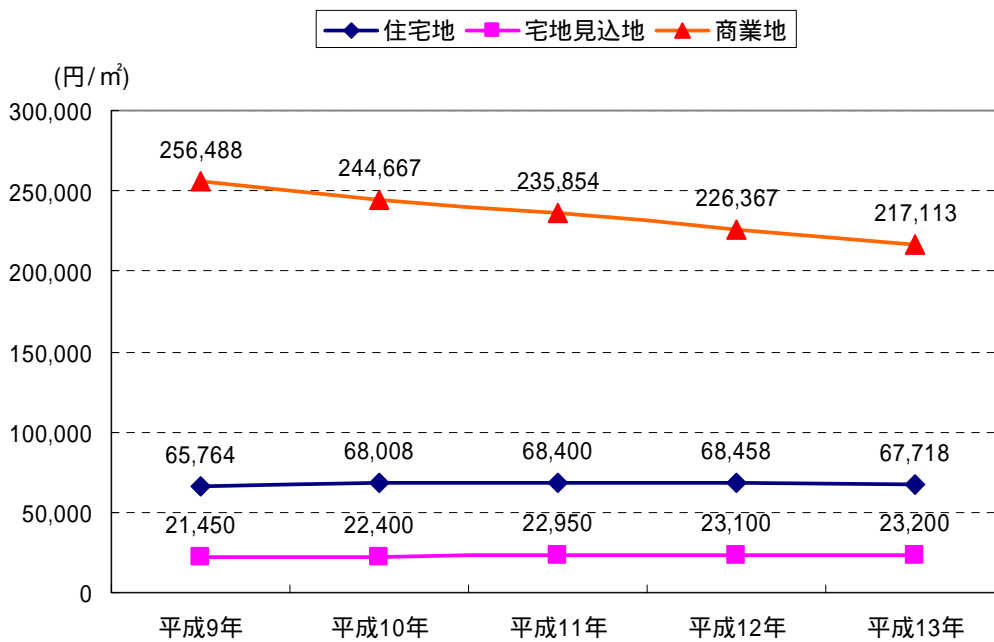


図 1-2-19 土地利用別平均地価の推移【秋田市】 (出典：地価公示各年版)

(3) 家賃動向

秋田市の1か月当たり家賃の平均は、41,822 円/月。

平成 10 年の住宅土地統計調査によると、秋田市の1か月当たりの家賃は、借家総数の平均で 41,822 円/月となっている。東北六県の県庁所在地と比較して、安価な類ではあるが、これらは 4,000 円/月程度の差で均衡している。

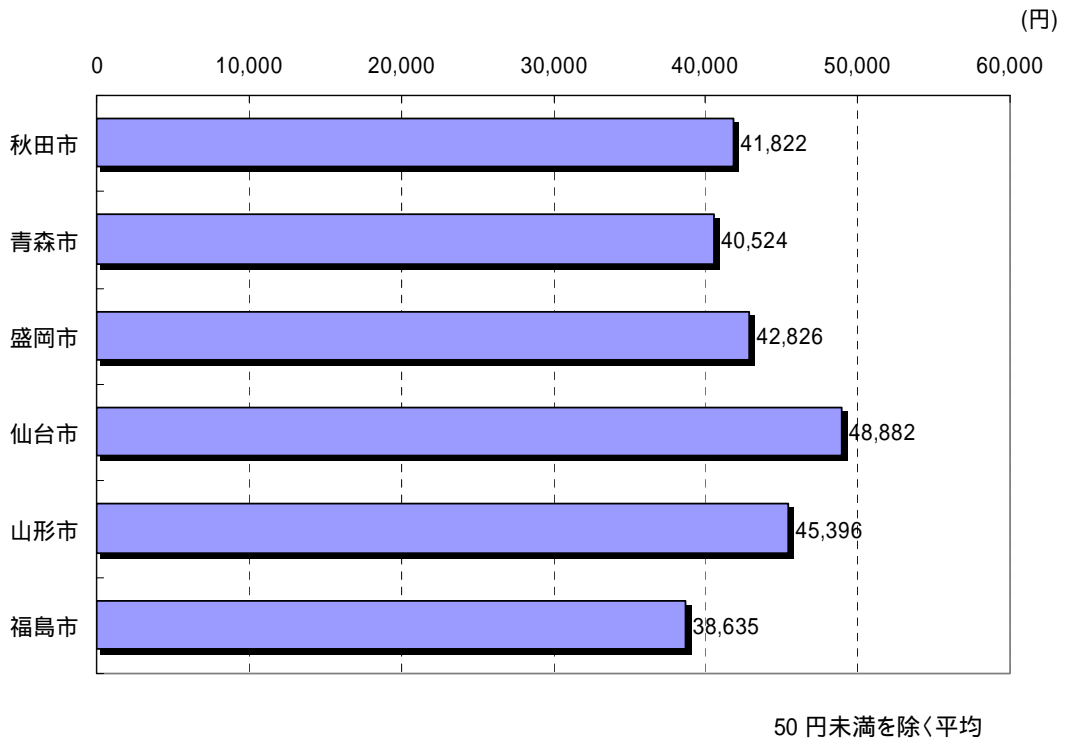


図 1-2-20 1 か月当たり家賃の比較 (出典:住宅土地統計調査 平成 10 年版)